

平成29年度 京都府立海洋高等学校 学校経営計画（年度末評価）

● 進路実績

- ・ 就職内定率（学校紹介分） 16年連続 100%
- ・ 国公立大学 25年連続合格

● 全国水産・海洋高等学校、初、全国大会3冠

- ・ 第19回全国水産・海洋高等学校カッターレース大会 2連覇
- ・ 第15回全国水産・海洋高等学校食品技能コンテスト 総合優勝
- ・ 第26回全国水産・海洋高等学校生徒研究発表大会 最優秀賞

平成29年度 第26回
全国水産・海洋高等学校生徒研究発表大会



全国水産・海洋高等学校生徒研究発表大会 最優秀賞

● 部活動（カッター部以外）

【国際大会】

2017 アジア・カデットレスリング選手権大会 女子52Kg級 優勝

2018 クリッパンレディーオープン 女子フリースタイル・ジュニアシニア53kg級 準優勝

【国内大会】

ウェイトリフティング部 インターハイ準優勝、ボート部、ヨット部 国体出場

● 全国水産高等学校長協会主催 マリンマイスター顕彰特別表彰 8名（1名 全国最多得点）

● 資格取得

- ・ 卒業生の88.5%が京都府教育委員会教育長表彰を受賞
- ・ 全校生徒で総数939件の資格を取得

● ボランティア活動 延べ6,826人が参加

● 鯖缶詰「京の鯖」、販売10ヶ月で約30,000缶出荷

● テレビ放映・新聞掲載等回数（3/29現在）

- ・ テレビ放映25回、ラジオ放送7回
- ・ 新聞、市民広報誌、ミニコミ誌、WEBニュース等掲載123回



学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>家庭・地域社会及び関係機関との連携を図り、社会総がかりの教育活動を展開し、将来の地域社会を支える水産・海洋の将来のスペシャリストを育成する。</p>	<p>（成果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 全生徒が希望進路を実現した。就職では、15年連続内定率100%、進学では、国公立大学に24年連続の合格となった。 2 各学科・コースとも、外部機関と連携しながら質の高い専門教育を展開するとともに、国や大学等が主催する各種研究発表に参加し、最優秀賞を獲得するなど全国規模での活躍が続いた。 3 資格取得において、京都府教育委員会教育長表彰の対象生徒が84%、総数は過去最多となる1,063件に達し、専門教育を推進する大きな力になるとともに、生徒の学習意欲を向上させた。 4 部活動への加入率が99%という府内でも際立つ水準を維持し、学校の活性化につながった。また、国際大会出場4人を含め、近畿・全国レベルの大会に出場した生徒は延べ165人（昨年度比+16名、全校生徒比1.7人に1人）に上り、高い目標を設定し、達成に向けて切磋琢磨する文化を根付かせることができた。 5 ボランティア活動の活発な状況が続いており、今年度、過去最高となる118種の活動に延べ6,561人が参加し、豊かな人間性を育むとともに、地域の活性化に貢献した。 6 前期・中期選抜とも2.17倍という過去にない倍率となり、教育活動が評価を受けるとともに、広報活動の見直しが奏効した。 7 HPの充実を図り、アクセス数が過去最高の96万件超（昨年度比+31万件）となり教育活動を広範囲に発信することができた。 8 キャリアプランニング・サポート（小中高連携事業）に、年間を通して2,481人が、また、新規事業「コラボ推進プログラム」に260人の児童・生徒が参加し、キャリア教育の一環として水産海洋に関する理解を深めた。 9 教職員の資質・能力の向上の観点から、公開授業の活性化、他校への授業見学、予備校教員セミナーへの参加等に意欲的に取り組み、授業力向上に対する意識を高めることができた。 10 海洋プロジェクト（体系的な学習及び進路指導）を通して組織的な指導を行い、学年全体の学力や意識が向上し、府立高校実力テストA・B問題双方において非常に高い成績を収めた。 11 地歴・公民科と学年部が連携し主権者教育に体系的に取り組み、選挙に対する心構え等を指導することができた。 <p>（課題）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「生徒指導アンケート」を導入するなど、規範（人権）意識の高揚を図ったが、指導事象が増加に転じた。教育活動を通じた学びに対する理解が弱く、着実な成長につながりにくかった。また、下宿担当者を置くなど、下宿生に対する指導の強化を図ったが、期待した成果が得られず、視点を変える必要がある。 2 多様な生徒が入学してくる現状を踏まえ、進級及び進路保障の観点から指導体制を強化し、指導状況を共有する。 3 学力向上に向けて組織的な指導を展開してきたが、成績不良科目数が増え、個に応じた指導の充実と徹底が求められる。 4 広報発出が遅れ、掲載回数が大幅に減少した。また、新聞広報の生徒配布が不徹底で、自己有用感育成の面で課題が残った。 5 アクティブ・ラーニングに係る研修への参加を促したが、手法や効果等の面で課題が見え、さらに研究を重ねていく。 6 大学入試センター試験の指導を強化し、過去最高の得点率となるなど成果は見られたが、目標点に届かない科目もあり、総合力養成に向けて検討する。 7 自転車通学に関わる無灯火、並列走行等危険な状況が見受けられるため、交通に係る指導を強化し、安全を確保する。 	<p>本年度学校経営の重点（短期経営目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学力向上と希望進路の実現 <ol style="list-style-type: none"> (1) 徹底した教材研究により授業・実習の質を改善するとともに、海洋プロジェクトを通して、より高い目標を掲げさせる。 (2) 学力に課題がある生徒に対して、早期から妥協のない指導を行い、多分掌が関わるなか、進級・卒業につなげる。 (3) 学年の実態に応じた相応しい指導を施し、教育効果を高める。 (4) 学習する癖を身に付け、安定して学習と向き合う生徒を育む。 2 基本的生活習慣の定着 <ol style="list-style-type: none"> (1) 規範意識の徹底 生徒指導に対する基準を共有し、一貫した指導体制の確立を図るとともに、課題のある生徒に対して指導の余地を残さない。 (2) 挨拶・マナーの徹底 日常の学校生活を「面接試験」の意識で過ごすことにより、「いつ」「どこでも」「誰に対しても」挨拶できる生徒を育てる。 (3) 下宿生、寮生に対する指導の徹底 下宿管理者と連携し、下宿生の内面に迫る指導を通して自立支援を行う。寮生に、常に模範生としての言動を心がけさせる。 3 心の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 人権意識の育成 指導シラバスに則り体系的に全体指導を行うとともに、突発的な事象に対して、個々の内面に迫る指導を行う。また、指導において、生徒指導部と人権教育担当者の連携を強化する。 (2) 自己有用感の育成 自己有用感を目標に向かって努力する支えと捉え、「居場所」と「出番」を意識した教育活動を展開するとともに、日常の声かけを重視する。 (3) 主体性の育成 生きる真の力として主体性を重視し、自らの意志で主体的に行動し、さまざまなことに積極的に挑戦する逞しさを育む。 (4) 理解力の育成 高校生活の諸活動の真の意味を理解させ、成長の糧とする。 4 「課題発見力」「知的体力」に資する専門教育の推進 新たな研究テーマに気づく「課題発見力」を育み、失敗しながらも粘り強く研究に携わる「知的体力」を磨く。 5 安心・安全の徹底 <ol style="list-style-type: none"> (1) 命と隣り合わせの実習が多いため、常に緊張感を持って実習に臨むとともに、点検・確認の徹底を図る。 (2) 自転車通学における交通ルールの遵守、安全第一を徹底する。 6 広報活動の強化 生徒数減少等環境の変化に対応する広報活動の在り方を検討し、生徒募集において確かな結果を残す。 7 同僚性の推進 OJTの観点から、学科・コース、教科、分掌内において同僚性をさらに推進し、「チーム海洋」として資質・能力の向上を図る。 8 外部機関との連携 水産・海洋関連産業や外部機関との連携をさらに推進し、最先端の分野に触れるとともに、地域の活性化や雇用創出に貢献する。 9 家庭、地域との連絡及び連携の強化 小まめな家庭連絡により本校教育に対する理解、協力を得る。また、地域行事へ参加し地域と触れ合い、人生経験を豊かにする。 10 全国水産・海洋高等学校カッターレース大会の成功 本校が主管校となって実施する全国大会を成功に導く。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	京都府教育委員会の指定事業「スペシャリストネットワーク京都」を活用し、すべての生徒の自信や誇りに繋がる専門教育を展開するとともに、特色ある教育活動の広報に努め、魅力ある学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営計画の各評価領域の具体的方策について、目標に対する進行状況を点検し指導することにより、高い達成状況を実現する。 <p>[学校経営計画実施段階における具体的方策の評価A+Bの割合]</p>	D	<ul style="list-style-type: none"> 以下の各分掌からの記載を基にする年度末評価で、A：25、B：30、C：14、D：20という結果であった。 次年度に向け、それぞれの領域において、目標達成を実現させる取組の充実が求められる。
		<ul style="list-style-type: none"> 特色ある教育活動を推進するとともに、専門教育の魅力を中学生及びその保護者に発信することにより志願者数の増加を図る。 <p>[平成30年度入学者選抜（前期選抜）における志願倍率]</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 台風接近等により夏季の学校説明会を中止せざるを得なくなり、10月実施の学校説明会が、年度最初の中学3年生を招く機会となったが、申込者数は137名と昨年度を上回る人数となった。 昨年度の高倍率からの隔年現象が危惧されたものの、前期1.77倍、中期1.41倍という結果であった。
	シティズンシップ教育を推進するとともに、望ましい規範意識や人権感覚を備えた生徒の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 人権に係る特別指導件数を減少させる。 <p>[特別指導件数の減少割合]</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 特別指導件数は、人権事象も含め減少した。 昨年度、課題が顕在化した下宿生に対するアンケート及び下宿生ミーティングの実施等が奏功した。 昨年度比で件数・人数は減少したが、人権意識の高揚に向け、心に訴える指導を取り入れるなど、新たな指導内容を検討していきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動への参加を推進することにより、望ましい人格の育成を図る。 <p>[年間参加延べ人数の増加割合]</p>	D	<ul style="list-style-type: none"> 105回、延べ6,826人の参加であった。 2学期間以降、お魚MAP等、当番制に基づく取組の計上を割愛しており、昨年度と同テーブル上での比較が困難ではあるが、台風災害復旧ボランティア等活発化し、生徒の社会人基礎力や自己有用感の醸成に貢献しており、次年度以降も充実させる。
	教職員研修を積極的に推進し、教科指導力を始めとした教育職員としての資質を高めることにより、総合的な教育力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 総合教育センターが開催する研修講座等の受講を推進する。 <p>[延べ年間受講回数]（初任者研修、2年目研修を除く。）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業の達人」に指定されている他校教員等の授業参観及びチャレンジサポート事業を活用した予備校講師による講義の受講を推進し、授業力の向上を図る。 <p>[延べ年間参観・受講人数]</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 受講者は延べ36人で、昨年度より微増した。
			B	<ul style="list-style-type: none"> 新規採用者対象他校種研修5名、他校教員の授業参観6名 チャレンジサポート事業による夏季、冬季及び春季講座受講者数 計8名

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
総務企画部	多くの小・中学校や保護者・地域住民等に、本校の魅力ある教育活動の発信に努めるとともに、目的意識の高い生徒の出願につなげる。	・ 中学3年生対象の学校説明会で、参加者数の増大を図る。 [参加者数]	D	・ 学校説明会10月136名、12月89名、合計225名の参加数であった。8月と9月の開催が台風の影響で中止となり、2回しか開催できなかったため、数値的には達成することができなかったが、参加者のアンケート結果からは満足度の高さが窺えた。
		・ ホームページの充実に努め、アクセス数の増大を図る。 [ホームページのアクセス回数]	A	・ 3月30日現在アクセス回数147万件。トップページの更新を始め、各分掌・担当から多くの情報が発信されたこともあり、アクセス回数が昨年度より大幅に増加し、海洋高校の教育活動を多くの方に発信することができた。
		[ホームページ及びFacebookによる新企画の掲載]	C	・ ホームページ2点変更（メニュー項目の整理、学科・コースの紹介ページの追加）にとどまった。システム上でできなかった企画もあった。 ・ 動画の掲載を進めることができなかったため、次年度、重点課題として取り組みたい。
		・ 地域に対する教育活動の発信を充実させる。 [栗田地区回覧板による情報発信回数]	D	・ 3月末現在15回。昨年度までは栗田地区のみであった回覧を、今年度から広範囲に実施することができ、地域に対する教育活動の情報を広範囲に発信することができた。
	生徒が人権について、自ら考え、正しい判断・行動ができるよう、生徒指導部と連携し、個々の内面に迫る指導を行う。	・ 人権だよりの発行、生徒が作成するポスターや標語等で人権について考える機会を継続的に持たせる。（昨年度人権だより4回発行） [人権だよりの発行回数・人権ポスター及び標語の掲示等の年間合計取組回数]	C	・ 人権だより4回発行 ・ 人権講演会・人権学習等で、人権について深く考え、人権だより等を通して継続的な学習に繋げていくことができた。 ・ 次年度、人権だより以外の取組も目標として掲げ、達成に向けて取り組みたい。
分掌内の連携を強化し、業務の効率化を図る。	・ 教務部内の連携を強化し、共通認識を持って職務に当たることで互いを補完し、業務の効率化と正確な業務を推進する。 [教務部会の実施回数/年]	A	・ 26回の教務部会を行い、短期及び中期の予定を確認しながら、共通認識を持って業務に当たった。 ・ 次年度も定期的にも実施するとともに、さらなる業務の効率化を推進する。	
次の学習指導要領を考慮し、アクティブ・ラーニング（以降、ALと表記）等の新しい指導・評価方法の研修に努める。	・ 年2回の公開授業週間をAL等指導週間と位置づけ、各教科で新しい指導・評価方法を試行（実施）し、次世代教育に対応する授業力の向上に努める。 [授業公開週間中のAL実施率、実施教員/全教員（ただし、非常勤講師を除く）]	D	・ 第1回公開授業週間（5月実施）でALを推進する計画を示した。実施後、実施内容を調査し、学科・学年・教科毎に実施率等を分析した（全体実施率：47%）。第2回は、指導力の向上を目指し、新しい評価方法（ルーブリック表等）の実施を全教職員に促した（AL実施率49%）。	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
教務部	学習姿勢や状況を点検し、その意義を日常から生徒に伝え、自主的・主体的に学習に向かわせることで学力向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の巡回指導や定期考査前の学習時間調査等を実施し、学習指導を推進する。 <p>[定期考査前1週間(休日含む)の1日平均学習時間]</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、日々の巡回指導を実施(112/162日 69%)し、授業の安定を図った。 定期考査前家庭学習対策の強化に努め、昨年度より0.1時間伸びた(1中間3.1h、1期末3.1h、2中間2.9h、2期末3.1h)。 次年度も学習指導を推進し、学習の底上げにつなげたい。
	生徒情報(欠課、資格取得等)の収集方法を改善し、教務上のミス未然に防止するとともに、より正確な記録を残す。	<ul style="list-style-type: none"> 出欠管理を「日々入力」に切り替えるとともに、資格手帳等を新規に導入し、チェック機能を高めることにより、教務書類(通知票・指導要録・調査書等)への誤記載を未然に防止する。 <p>[教務部書類(通知票・指導要録・調査書等)の誤記載件数]</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初より、日々入力を導入し円滑な運営を図るとともに、その利点についても確認できた。 資格手帳を導入することで、調査書等の誤記入防止に努めた。 次年度も指導要録の作成及び点検には、慎重に業務を遂行することが必要である。
生徒指導部	生徒と教職員の信頼関係の構築を基盤に人権意識と規範意識を高めるシティズンシップ教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒への声掛けや挨拶等の働きかけをきっかけに、生徒とのコミュニケーションを図る。また、いじめアンケート、生徒指導アンケート、下宿生アンケート等を活用し、問題行動の未然防止に努める。(昨年度59名特別指導) <p>[特別指導件数]</p>	D	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケート、生徒指導アンケート、下宿生アンケートをそれぞれ実施し、気になる生徒については面談や指導を行った。その結果、昨年度と比べ、特別指導者数は減少した。しかし、指導対象の半数は、親元を離れて生活している下宿生で、減少傾向ではあるが、継続課題と認識し、次年度に改善を図りたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲の向上と学習習慣の定着を図るため、授業中の巡回指導等を行い授業規律の確保に努めることで、授業規律等報告用紙を活用した指導者の減少を目指す。(昨年度23名指導) <p>[授業規律等報告用紙指導人数]</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律報告用紙を活用して授業以外の指導にも報告用紙を活用し、学校生活の安定を図る上で重要な取組になった。 次年度も授業中の巡回指導や各教科担当と情報交換を行い、学習環境の整備に努めるとともに、生徒の公共の場でのモラル向上にも力を入れ、生徒の学力向上や自律へつなげたい。
	生徒指導部の取組情報の発信を行い本校教育に対する理解と協力を求め、信頼される学校づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動、ボランティア活動、下宿生活の様子等をホームページに掲載する。(昨年度25回掲載) <p>[ホームページ掲載回数]</p>	D	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動、ボランティア活動、下宿生活の様子等のホームページ掲載は合計21回であった。今年度は、ボランティア活動の取組を掲載したが、それ以外の掲載数が減少した。 次年度は、積極的にバランスよく掲載したい。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
進路指導部	3年間を見通した一貫性のある進路指導体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> 各種進路指導を「海洋プロジェクト」として展開し、効果的な進路指導を実現する。 <p>[進路意識調査に対する満足度]</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路意識調査で、進路指導に満足度は92.7%であった。レディネステストを活用した自己理解を深める取組や、進路に対する理解を深めるため、自治体と協働して職場見学や大学・専門学校での体験学習を実施した。 生徒の希望進路が多様化する中で、より効果的な進路指導ができるよう、改善に取り組んだ。
	学年に応じた進路意識を定着させるとともに、スタディサプリを活用して進路実現並びに社会生活で求められる学力や表現力を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間「キャリアチャレンジ」等を活用した進路学習を展開する。 <p>[2年生3学期における志望先の決定状況]</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 2年生学年末での志望先を決定した生徒の割合は96%で、未定の生徒についても、決定できるよう指導を継続している。 各学年部、学科・コースが、それぞれの授業や実習等の場面で進路指導を実施しており、次年度も計画的かつ共同的に指導を展開する。
		<ul style="list-style-type: none"> 到達度テストやチェックテスト等を活用して、講座並びに個に応じた指導を展開する。 <p>[スタディサプリを活用した進学・ベースアップ補習の実施回数]</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 実施回数45回。授業や進学補習、センター演習や総合的な学習の時間「キャリアチャレンジ」において、学び直しや発展的な学習、センター試験対策や公務員試験対策等に活用した。センター試験では、過去10年間で最高の平均得点率を得ることができた。 次年度、個に応じた指導の充実・発展のために、教材の活用方法についての研究を深めたい。
		<ul style="list-style-type: none"> スタディサプリの「よのなか科」を活用してブレインストーミングを行い、受験や社会生活で求められる「コミュニケーション能力」や「プレゼンテーション能力」等を高める。 <p>[「よのなか科」の実施回数]</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> 実施回数10回。朝学習や総合的な学習の時間「キャリアチャレンジⅢ」、就職希望者登校日等で実施した。答えの無い問題を、ディベートやブレインストーミングを活用して考え、表現することに、生徒は意欲的に取り組んだ。 課題解決能力を高めるために、計画的に継続して取り組む必要がある。
	学年部を始め関係分掌と連携し、進路実現に向けての統一した指導を実践し、希望進路を実現させる。	<ul style="list-style-type: none"> 進路検討会議情報の共有化を図り、個に応じた適切な指導を展開することにより、希望進路を実現させる。 <p>[就職における一次内定率]</p> <p>[進学における第1希望校合格率]</p>	B A	<ul style="list-style-type: none"> 就職の一次内定率は92.6%、進学の第1希望合格率は90.7%であった。 2年次より進路検討会議を重ね、早期に希望進路を決定し、学年、学科・コース、分掌で有機的に連携して指導した結果、高い内定・合格率を得ることができた。 全ての生徒が希望の進路実現を果たせるように、本年度の成果と課題を分析し、指導方法の改善を図らなければならない。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
保健部	校内の安全安心な環境を維持するために点検を行い、改善が必要なところは保健部から提案する。	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の清掃について、保健部が定期的に清掃点検をする。 <p>[年間の清掃点検の回数]</p>	D	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃点検が8回しかできなかった。2学期、掃除場所が一カ所担当者不在ということもあり、清掃点検ができなかった。ゴミの分別に課題があるため、次年度以降、改善したい。
	生徒の情報共有に努め、「チーム海洋」としての組織力強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状態を学校全体で把握する。 <p>[生徒の保健室・スクールカウンセラー利用状況のデータ更新間隔]</p>	D	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーと来室した生徒の情報交換はできたが、生徒の保健室利用状況、スクールカウンセラー利用状況ともに更新することができなかった。 ・次年度から学校等欠席者・感染症情報システム（サーベイランス）が運用されるため、利用状況の更新に活用したい。
	身体測定や各種検査、委員会活動等、学校の様子を広く外部に発信し、保護者の理解、協力を得る。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への情報発信を小まめに行う。 <p>[ホームページ更新の各項目における回数/年]</p>	D	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新は2回であった。 ・次年度以降、健康診断やインフルエンザ対策等、情報発信を励行したい。
事務部	魅力ある専門教育を追究し、質の高い授業及び実習を展開するための予算執行に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、分掌、学科・コース予算及び各種事業費予算について、効果的に活用するために早期の執行を促し、連携に努めながら、より効果的な研究活動の推進や学力向上に寄与する。 <p>[12月末の予算執行率]</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室の常設プロジェクターを始め、年度当初に調達を予定していた備品等が早期に揃い、授業やキャリアプランニング・サポート等で活用できた。 ・予算提案時期が遅れ、8月になり、早期提案が課題となった。 ・次年度以降、予算提案を7月までに行い、更に予算執行を行いやすい環境にする。
	教職員間の連携を密にし、安心・安全な教育環境の整備を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備について安全点検を行い、安心・安全な教育環境を維持し、事故の防止に努める。 <p>[1年間の点検回数（上段）と改善率（下段）]</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月点検を実施する一方、改善箇所への対応を早期に実施できた。反面、気象条件等により点検が行えない場合があり、次年度以降、十分な点検が実施できるよう、例月に加え、特別点検も行う。 ・施設設備修繕件数 30件 ・点検実施回数 9回 ・改修率 78%
	家庭への連絡等の情報発信を行い、信頼される学校づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・事務部からの援護制度等の案内を、ホームページにおいてもその都度速やかに掲載する。 <p>[ホームページ更新回数]</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを活用した家庭への情報発信が1学期に実施できなかったことも影響し、28年度と比較すると低迷した。 ・次年度、事務部ならではの学習環境や四季の変化等も交えながら積極的に取り組みたい。 ・ホームページ更新 44回

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
みずなぎ	全ての実習を通して安全・安心を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> 乗船実習時、前における集合操練を実施するとともに、救急コール携帯の徹底を図る。 <p>[操練実施回数]</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> 集合操練は、停泊中も含め10回の実施であった。 次年度以降は、乗船実習中以外でも実施し、生徒に体験させることが必要である。 1年次に乗船経験があるものの、避難場所すらわからない生徒があったことは課題であった。救急コール携帯の徹底は行き届いていた。
	規律ある船内生活を通してシーマンシップを育成するとともに、規律意識の高い生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 乗船実習中においても、服装、挨拶等の基本的生活習慣の徹底を図る。 <p>[基本的生活習慣の指導実施率]</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 乗組員が一致して指導に力を入れたことが奏功した。次年度以降も継続させたい。
	実習船「みずなぎ」の機能を十分に活用した魅力ある実習を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> より充実した実習にするために、打ち合わせ、反省会を実施する。 <p>[打ち合わせ、反省会の実施率]</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> 全ての実習において打合せ及び反省会の実施ができた。 次年度以降、実習前後の早目の実施を励行したい。
寮務部	黒潮寮での教育活動の様子を発信し、信頼される学校づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ホームページでの発信の回数を増加させ、きめ細かな情報提供を行う。 <p>[ホームページでの発信（昨年度比）]</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> 1学期はホームページの更新が全く行えず、中間評価段階でDとしたが、2学期以降、3年生を中心に更新内容を提案させ、定期的に発信することができ、発信回数を増やすことができた。
	黒潮寮生としての自覚と責任感を持たせ、人権意識を高め、学校全体を牽引する人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識の向上による特別指導件数の減少を目指す。 <p>[特別指導件数の減少（昨年度比）]</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> 反省文指導等の特別指導があり、昨年度より微増となった。 学校を牽引していく人材となるように、あいさつや朝の奉仕活動は年間を通じて実施することができた。
	家庭学習習慣の確立を図り、進路実現に向けた基礎学力の獲得を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> SHR等で定期的に学習時間のチェックを行うことで毎日の学習習慣の定着を図る。 <p>[毎日の家庭学習を1時間以上行っている生徒の割合]</p>	D	<ul style="list-style-type: none"> 学年の目標として「1日最低1時間の家庭学習の実施」を設定し、家庭学習習慣の確立に向けての取組を行い、学年集会等の場を通じて、1年次の学習習慣の確立の大切さについて指導してきた。 こまめな学習時間のチェックが実施できなかったが、3学期に実施したチェックでは、毎日学習を行っている生徒は60%であり、学習習慣の定着には課題が残った。
		<ul style="list-style-type: none"> 早期から資格や検定にチャレンジさせ、生徒のキャリアアップを図る。 <p>[1人当たりの資格、検定取得数]</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年として進路実現に役立てるために積極的に資格試験の受験を促し、多くの生徒が資格取得に意欲的に取り組み、1人あたり平均3個以上の資格を取得することができた。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
第1学年部	<p>学校生活を通して、社会人として必要な生活習慣を身に付けさせる。</p>	<p>・ log note等を活用し、自己管理能力を向上させ、欠席する生徒の減少を目指す。</p> <p>[1年間無欠席の生徒の数]</p>	B	<p>・年間を通してログノートの携帯及び活用を促し、自己管理について指導を続けてきた。1学期に比べ忘れ物や提出忘れをする生徒の数は少なくなったが、体調を崩して欠席する生徒の数を減少させることができず、課題が残った。</p>
		<p>・部活動参加を積極的に促し、年間を通して全員加入の状態を目指す。</p> <p>[学年末部活動加入率]</p>	B	<p>・4月、7月と部活動について学年集会を実施し、部活動の意義、有効性の指導を行い、2学期までは全員加入を維持することができたが、人間関係等の理由で数名が参加できていない状態となった。</p> <p>・今後も所属できる部活動を模索し、全員加入を目指したい。</p>
	<p>さまざまな教育活動を通して自己有用感や人権意識を育み、生徒一人一人の内面からの規範意識の向上を図る。</p>	<p>・HRや学年集会を通して、他者を尊重する態度を育む機会を積極的に設ける。</p> <p>[学年の取組の回数]</p>	A	<p>・学年として「人を傷つけない」という目標を設定し、日々人権意識の醸成に努めてきた。</p> <p>・1学期に2回、2学期に2回、3学期に1回人権について考える学年集会を開催し、人権について、心に訴える指導に努めた。</p>
		<p>・奉仕活動紹介やその意義についてのアプローチを積極的に行い、生徒の自主的な参加を促す。</p> <p>[1人あたりのボランティア活動の参加回数]</p>	B	<p>・SHR等を通してボランティア活動の案内を積極的に行い、多くの生徒が活動に参加した。1学期は海浜清掃、カッターレース補助、障害者海釣り大会の補助。2学期は台風災害復旧、和火、中学生学習支援等の活動に参加することができた。1人あたり平均2.8回の参加となった。</p>
	<p>生徒の希望進路実現に向け、学習に取り組む姿勢や習慣を身に付ける。</p>	<p>・自己管理ノートの活用や学年、個別指導及び教科との連携により、家庭等での学習時間を伸ばし、学力の向上を図る。</p> <p>[定期考査1週間前(平日)及び考査期間の家庭学習時間3時間以上の生徒の]</p>	B	<p>・考査前の自主学習時間は1学期中間3.1時間、期末は3.1時間、2学期中間2.8時間、期末は3.1時間、3学期は2.8時間であった。また、3時間以上自主勉強に取り組んだ生徒は約49%であり、日常の学習時間平均は約90分であった。</p>
		<p>[成績会議での成績優秀者の人数(3クラスの平均値)]</p>	A	<p>・1学期末での各クラスの成績上位者は24名、2学期末は25名、3学期は24名となり、評定平均値も1学期に比べて高い傾向を示した。</p> <p>・3年次でも評定をさらに伸ばし、希望進路実現に向けての学習意欲向上を図りたい。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
第2学年部	自立と自律を目指し、高校生としての自覚と誇りを醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会や委員会等を活用して学年や学級運営に取り組み、生徒の自主性とシティズンシップの向上を図る。 <p>[生徒の自主活動取組件数]</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 中央委員による頭髪服装指導や環境美化委員による環境美化ポスター製作、修学旅行委員による壁新聞づくり、修学旅行委員を中心とした修学旅行の事前学習やまとめ発表の企画と運営、クラス単位で中央委員を中心とした頭髪服装指導等、第2学年独自の委員会活動や係活動を実施した。
		<ul style="list-style-type: none"> 自立と貢献の精神を育むボランティア活動に積極的に参加する。 <p>[1人あたりのボランティア活動参加回数]</p> <p>(寮、部活動、生徒会等の日常的な活動は除く。)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期から3学期中旬にかけて、花いっぱい運動や由良川クリーン作戦、海浜清掃、カキ殻回収ボランティア、全国カッター大会運営、エコキッズ与謝野、高校生レストラン、ミニ水族館等、多種多様なボランティアに一人平均6回以上参加した。
	規範意識を高めるとともに、自他を尊重する心を育み、落ち着いた学校生活と学習環境を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> 指導対象行為を未然に防ぐ観点から、日常的にルールやマナーを守らせるとともに、正しい身なりや服装の指導を定着させる。 <p>[定期指導時（考査期間等）の頭髪服装指導件数]</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年部・クラス単位での日常的な頭髪・服装点検により、自身の身なりや服装を客観視し、自己点検を行った上で、定期的な頭髪・服装指導に臨む生徒が増え、年度当初に比べて指導件数が減少した。海洋生である自覚を喚起し、頭髪や服装が常に適切である状態を維持したい。
進路意識を向上させ、希望進路の選定に繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> 進路学習や進路面談等を通じて、希望進路実現に向けての意識向上を図り、早期に希望進路先の決定を図る。 <p>[2学期末における進路希望先の決定状況]</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期より、適性検査と診断分析や進路希望調査の定期実施、大学や企業の見学会等を実施して進路意識の向上を図った結果、年度末の進路希望調査では98%の生徒が希望進路の分類や分野を絞り込み、具体的な進学先や就職先も挙げるようになった。 次年度も基礎学力の向上、高い評定平均値の獲得及び希望進路実現に対する意欲の喚起に努めたい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 資格や検定の取得を推進し、生徒のキャリアアップを図る。 <p>[1人あたりの資格・検定取得平均]</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 小型船舶操縦士や危険物取扱者、栽培漁業技術検定、海上特殊無線技士、英検数検等、多種多様な資格に生徒が挑戦しており、2年次終了時の取得数は3.1個である。 3年次も、再配布した資格ハンドブックを活用し、資格取得数を増大させたい。 	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
第3学年部	学力の向上と希望進路の実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な指導の積み重ねにより生徒の進路意識の向上を図り、他分掌等とも連携を深めることで、希望進路を実現させる。 [第1希望合格率] 日常的な指導に積み重ねと教科等との連携を深めることで、次の5つの目標を達成できるように努める。 <ol style="list-style-type: none"> 1 考査前学習時間が平均2時間未満の延べ生徒数を昨年度比で30%減少させる。 2 欠課通知カ×ド(10%)を昨年度比で30%減少させる。 3 学年末評価平均値を7.4以上にする。 4 学年末の成績優秀生徒数を35人以上にする。 5 学年末において不認定科目を出さない。 <p>[達成できた項目数]</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 第1志望の進路希望先が不調となった生徒は5名であり、第1希望合格率は良好な結果となった。
	基本的な生活習慣の定着及び心の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な指導の積み重ねと保護者等との連携により、規範意識と人権意識の向上を図る。このことにより、次の4つの目標を達成できるよう努める。 <ol style="list-style-type: none"> 1 授業規律指導報告を昨年度比で30%減少させる。 2 頭髪服装指導件数を昨年度比で30%減少させる。 3 特別指導件数を受ける生徒の延べ人数を昨年度比で30%減少させる。 4 卒業式において、指導を受ける生徒をなくす。 <p>[達成できた項目数]</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 1について、授業規律指導報告は年比30%以上減少させることができた。 2について、昨年度を大きく下回る結果となった。事前指導を徹底する等の工夫が効果的であった。 3について、該当生徒数は目標の数値を上回り目標を達成できなかった。 4については、女子の化粧の面で指導を受ける場面があり、課題を残した。
海洋科学科	地元水産・海洋関連産業を始め、関連外部機関と連携し、最先端の分野に触れるとともに、専門性を深化させ、地域の活性化に貢献する人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 実習内容を精選し、地域や関係機関、大学等との連携を推進する。 <p>[新規の外部連携先もしくは形態数]</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 8回実施(宮津なまこ組合等)の他、航海船舶コース連携の下、マグロ仔稚資源調査(国際水研)が実施でき、国際的な調査に参画することができた。 全国水産・海洋高等学校生徒研究発表大会にて最優秀賞を受賞することができた。
	自己有用感や主体性を育み、希望進路実現に向かう力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 進路面談、面接練習を通して、きめ細かい進路指導を実施する。 <p>[学期毎の平均面談・面接練習回数(実施回数/生徒数)]</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 3年生は面談3回及び面接練習1回実施、2年生は面談4回実施。複数回の面談を行うことで、希望進路実現に向けて足がかりとすることができた。 次年度以降も面談・面接を積極的に行い、生徒の実態把握及び進路指導を徹底したい。
		<ul style="list-style-type: none"> 「居場所」と「出番」を意識した教育活動を実施する。 <p>[異学年交流実施回数]</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 11回実施(基隆高級海事職業学校歓迎式典、学科内予選、各種講演会等)。学科で計画・実施したもの以外に、3年生が自発的に2年生を指導する雰囲気ができ、研究活動の引き継ぎも円滑に行うことができた。
		<ul style="list-style-type: none"> 第3学年において、希望進路を実現させる。 <p>[第1志望合格率]</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 第1志望合格率82%。国公立大学5名、管轄外2名、私立大学13名、専門学校6名(内公立2名)、公務員1 面談や面接練習を通じて、個人の希望進路を早期に把握し、適切な情報提供や指導を推進できた。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
	<p>OJTの観点から、教員の専門性を高めるとともに、幅広い視野を備えた、質の高い教育活動を展開する。</p>	<p>・教員自らが学ぶ姿勢を示すことで、生徒の学ぶ意欲を引き出す。</p> <p>[スキルアップのための自己研修（平均回数）]</p>	D	<p>・平均回数2.3回。自己研修に対する教員間の意識が二極化した。次年度以降、学科会議で定期的に確認し、自己研修への意識や姿勢を醸成したい。</p>
海洋工学科 航海船舶コース	<p>常に緊張感を持って実習に臨むとともに、点検・確認の徹底を図る。 また、実習の様子をタイムリーに発信し、保護者の安心につなげる。 (短期経営目標5 安心・安全の徹底、同9 家庭、地域との連絡及び連携の強化)</p>	<p>・日常の実習においてもKYT（危険予測トレーニング）を取り入れる。 ・キャリアトライアルでは生徒アンケートを実施し、反省検討の材料とする。 ・GLOBE観測やキャリアトライアル実施後、翌週には学校ホームページにアップする。</p> <p>[生徒アンケート（自身の緊張感の項目で肯定の割合）]</p>	B	<p>・船員災害防止協会KYT資料等を活用して、事前指導を行った。 ・3年生アンケートの結果 底曳94%、航海89%、底曳89% ・ホームページ更新回数・・・32回 日頃の校内での実習から、緊張感を持って安全に配慮した環境づくりを心がけた。 生徒のアンケートでは、18名中1、2名が自らを戒めるための否定的な回答をしていたものの、概ね良好な回答の結果であった。 ホームページは、実習船での実習を中心に随時更新でき、保護者にも教育活動の様子を発信することができた。</p>
	<p>知的財産に関する能力を育成する教育活動を新規に導入する。 (短期経営目標4「課題発見力」「知的体力」に資する専門教育の推進)</p>	<p>・平成29年度に採択された「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」に則して、授業・指導活動を実践し、地域交流・研究協議会及び報告会に参加する。</p> <p>[取組件数]</p>	C	<p>・事業に則した活動の取組 ①弁理士出前授業5月 ②地域別交流・研究協議会（中部近畿支部）への参加8月 ③パテントコンテスト応募 ④意見交流会11月、1月 ⑤水産学会ポスター発表12月 特許申請の有力候補として期待がかかった鮮度保持シートについては結果が出せなかったが、アカムツ資源保護目的の改良網や未利用資源活用の10次産業等の分野で一定効果が上がった。 ・次年度以降、課題を基に研究方法の改善に努めたい。</p>
	<p>専門性の高い資格を取得（合格）させ、関連の進路（進学）先で活躍できる人材を育成する。 (短期経営目標1(4) 学習する癖を身に付け、安定して学習と向き合う生徒を育む。)</p>	<p>・四級海技士（航海）筆記試験合格、第二級海上特殊無線技士及び二級小型船舶操縦士の資格取得を航海船舶コースの標準目標とする。 ※数値目標：海技士三級3名・四級4名、二海特5名、小船二級10名・一級7名</p> <p>[上記項目達成数]</p>	A	<p>① 海技士筆記試験三級3名 ② 同四級6名 ③ 二海特5名 ④ 小船二級13名 ⑤ 同一級11名 今年度は、コースとしての目標を設定したことで、生徒1人1人の取得状況を把握しながら指導していくことができたので、生徒の意欲向上にもつながり、成果が上がった。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
海洋工学科 海洋技術コース	マリンエンジニアに関わる専門性の高い教科指導等により、将来のスペシャリストを目指す。	・国家試験潜水士合格率を高めるとともに、潜水技術検定1級取得者を出す。 [潜水士合格率]	A	・4月と6月の国家試験合わせて、90%の合格率となった。2学期に再受験した生徒は合格しなかったが、今後合格を目指す。 ・2年生対象にはすでに国家試験対策を始めており、次年度は合格者増大を目指したい。
		[潜水技術検定1級取得者数]	A	・卒業後に港湾潜水潜水技士の取得を視野に入れ、3年生9名が潜水技術検定1級の講習を受講し、筆記及び実技検定に合格した。 ・次年度はテキストの内容が改訂されるため、早期に入手し指導内容を更新する。
	校内外における連携強化により、特色ある実習製品のブランド価値向上とエコサイクルの確立を目指す。	・ヒトデ・ウニ堆肥の連携販売量を増やし、販売を促進する。 [販売量]	C	・昨年の宮津湾ナマコ漁見送りにより、ヒトデ堆肥は増産できなかったが、海洋祭や他校での連携販売、「あすのKyoto・地域創生フェスタ」等で予定数の完売に加え、堆肥への興味・関心とその効能が少しずつではあるが地域に広がりを見せている。
		[堆肥製造や活用等の連携回数]	B	・京都府漁業士会とのウニ駆除や峰山高校弥栄分校との共同栽培研究と連携販売、ヒトデを活用した栗田小学校との葉菜類栽培、航海船舶コースからのヒトデ提供、ヒトデ堆肥を活用したホンモロコ餌料の増大等を実施した。 ・次年度も実施回数を増やし、エコサイクルの充実を目指す。
	進路相談や面談等により生徒の進路意識を高め、希望進路の実現を図る。	・生徒対象の進路面談を実施し、コース関連の進路先を踏まえた進路指導を行う。 [海洋技術コース2・3年生との面談回数]	A	・進路先の選定に関わる面談を、3年生対象に2回、希望する進路先に関わる面談を2年生対象に2回実施した。 ・3年生の進路決定後の面談では卒業後を見据えた資格等の準備についても指導することにより、生徒各自のキャリアアップの一助とすることができた。
		[関連進路先の内定合格率]	A	・海洋技術コースの3年生のうち、70%が潜水や海洋土木、サルベージ等の関連企業や水産海洋・工学系大学に合格・内定した。 ・2年生の進路決定においても関連進路先の推奨と指導を継続する。
	学力向上を目指し、生徒の積極性や意欲を引き出すことができる教科指導力の向上を図る。	・コース担当教員の授業参観や専門研修を通じて指導方法等の授業力向上を図る。 [授業参観・研修回数]	A	・ガス・アーク溶接の授業見学や安全管理に関わる研修、小型船舶の操船、潜水業務の見学、救急救命に関わる研修をコース内で実施した。 ・次年度はより多くの研修を実施することにより、保有する資格を増やすとともに、指導力の向上を図りたい。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
栽培環境コース	栽培環境コースにおける授業や実習の成果を確実に出し、自己有用感を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 主力生産物であるホンモロコの年間育成量の増加を図る <p>[ホンモロコ育成量の対前年比(%)]</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 旧上宮津小プールにおける収穫量は103kg、休耕田における収穫量83kgであり、合算した186kgは、対前年比305%の結果となった。 生徒と地元自治体との連携によるホンモロコ養殖の普及拡大に向けて、着実に成果を上げることができた。
		<ul style="list-style-type: none"> 栽培漁業技術検定を始めとした資格検定の取得を推進する。 <p>[資格検定取得数]</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習成果を図る指標として取り組んでいる資格取得では、2年生で平均取得数3個、3年生の平均取得数も3個の結果であった。 栽培漁業技術検定を中心に高い合格率(潜水士、1級小型船舶操縦士については、受験者全員合格)を収めることができた。
	面談、個別相談等を適宜実施し、関連進路先を中心とした希望進路の実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 第1希望進路先への内定・合格率(就職+進学)を向上させる。 <p>[第1志望内定・合格率]</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 栽培環境コース20名中19名が第1志望先に内定し、内定・合格率は95%の結果であった。残る1名も1月18日付けで合格をした。全員の進路が決定したが、関連分野への進学、就職を増やしていくことを念頭に、関連分野へ進むための進路アドバイスが必要と考えている。
地域活性化に繋がる教育活動を展開していくために、外部機関との連携に努め、栽培環境コースが取り組むべき研究等の検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 地元水産・海洋関連機関を始め、さまざまな研究機関や関連企業、自治体と連携し、教員及び生徒の学識向上を図るとともに、地域活性化に繋がる取組を実施する。 <p>[実習における外部関連機関との連携回数]</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> 京都大学附属舞鶴水産実験所、橋本水産、西南水産、海洋センター、上宮津地区自治会、マルキュー、丹後魚つ知館等、研究機関、関連企業、地元自治体等と連携を図っている。 多くの連携を行うことにより、実習内容の充実、生徒の学習意欲の増大に繋がっている。 	
食品経済コース	関係諸機関や他の分掌と十分に連携し、生徒指導に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 実習ごとに頭髪服装検査を行い、日頃から指導を徹底する。 <p>[頭髪服装指導の件数]</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部と連携し、実習ごとに頭髪、服装等及び実習着の下に着用する体操服について毎回点検を行った。 班長を中心としたボディチェックシステムを導入するとともに、食品衛生実験や基礎微生物実験をガイダンス時に行い衛生面からも服装の乱れについて指導した。 3年生については、2月の登校日ごとに集合させ、コース長の訓話とともに、独自の頭髪服装指導を行った。
	コース内での連携を十分に行い、生徒の希望進路に即した授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> コース内の共通認識を深めるとともに、学年部、生徒指導部との連携を強めるとともに、それぞれの情報をコース会議で共通理解する。 <p>[コース会議の回数]</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の反省を活かし、毎週の学科・コース会議で、生徒状況等の情報共有に努めた。 2年生については、副担任を中心に、生徒個々の状況の共通理解を図った。 3年生については、コース長が、学年部と連携し、情報収集に努めるとともに、今年度から始めたコースによる進路面接練習の時間を活用し、生徒理解に努めた。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
国語科	基礎学力の定着と国語に対する意欲・関心を高め、すべての教科の基礎となる国語力の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 府高実力テストにおいて、成績を向上させることで一般入試にも対応できる学力を身に付ける。特に進学補習を通じて、古典・漢文の学習を強化し、更なる国語力の向上を目指す。 <p>[1、2年の1月府高実力テスト偏差値60以上の生徒数]</p>	D	<ul style="list-style-type: none"> 偏差値60以上・・・1年：25、2年：18、計43名 冬季進学補習では、1・2年生は古典・漢文を中心に授業を行った。文法や、重要事項の確認をし、基礎力の向上に繋げることができた。 次年度以降も、国語力向上に努めたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 国語の基礎となる漢字力を向上させるため、毎週漢字テストを実施し、漢字検定を受検する意識を促す。特に進学補習を通して受検を呼びかけ、過去問題を配布するなどして意欲・関心を高めるとともに、合格者数の増加を目指す。 <p>[漢字検定の3級以上の合格者]</p>	D	<ul style="list-style-type: none"> 漢字検定・・・3級以上合格者：27名 全4回中3回実施し、18人が合格 設定している数値目標に、合格者数が届かなかった。 次年度はさらに受検を呼びかけ、合格者数の増加を目指すとともに、数値目標の調整も検討したい。
地歴・公民科	学びの癖をつける学習指導の徹底に努める。観点別学習状況の評価を充実させ、すべての生徒に確かな学力を身に付けさせるとともに、生徒の学習意欲を向上させ、普通科教科の質を保証する。	<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価の[技能][思考・判断・表現]を統括的に評価するパフォーマンス課題（各学期2回、各10点）において、平均得点を向上させる。 <p>[パフォーマンス課題の平均得点]</p>	D	<ul style="list-style-type: none"> 学年末考査の結果、1、3年生の合計平均得点は7.0であった。取り組む姿勢・意欲に大きく差が出てきており、点数差も大きかった。 今後は評価項目の細分化、テーマ設定、実施回数を吟味し、生徒の意欲喚起につながる課題にしたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 今年度実施予定のニュース時事能力検定において、合格できる力を育成する。 <p>[N検合格者数]</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> 今年度4回実施した結果は、3級合格者35名（合格率62.5%）、準2級合格者7名（合格率33.3%）、2級合格者1名（合格率50.0%）計43名（合格率57.3%）となった。 次年度はこの数字を基準に合格率、合格者の数字を上げるよう努める。
数学科	主権者教育の柱の科目として、政治的教養を育むこと、法やルールに関する教育の実践、地域貢献・地域連携活動の3つの視点を意識して、ALの手法を用いて、国家・社会の形成者としての資質を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 科目「現代社会」（1、3年履修）において主権者教育を推進する。 <p>[主権者教育に係る授業実施回数（各学年）]</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> 2学期にLHRの時間を活用し、主権者教育を行ったが、現代社会の時間でもそれに関わる内容の討議や話し合いの時間を持った。 次年度は京都府北部で首長選、地方議会議員選が多く実施されることから、更なる主権者教育の充実に努めたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 数学検定の受検を促し、数学への興味・関心と資格取得に対する意識を高める。 また、検定合格に向けた学習を通して、苦手分野を克服するとともに、主体的に学習に取り組む姿勢を育む。 <p>[数学検定受検者数]</p>	D	<ul style="list-style-type: none"> 3回の検定の合計受検者は36名であった。要因としては、昨年度1年生の受検人数が例年に比べて少なく、生徒間で点検する必要はないという風潮が蔓延したと考えられる。粘り強く検定受検を呼びかけた。
		<ul style="list-style-type: none"> 外部模試を十分に活用できていない現状を打破し、模試に対する生徒の意識を向上させる。 模試対策・振り返りを通して、既習事項を確実に定着させ、希望進路実現につなげる。 <p>[1・2年生の実力診断・判定テストのBゾーン以上の割合]</p>	D	<ul style="list-style-type: none"> 1年生15名受験で5名がBゾーン以上、2年生は18名受験で1名がBゾーン以上であった。合計33名受験で6名がBゾーン以上、割合は18%であった。 両学年とも補習で進研模試等を扱い、意識向上に向けて取り組んだが、目指していた伸びが見られなかった。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
理科	学力の向上と希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> 特に弱点となっている内容説明の仕方や発問の仕方について改善することやALやICTの活用を含めた教材の研究時間を確保することで授業内容の充実を図る。 [授業評価における評価点の平均値] 	D	<ul style="list-style-type: none"> 中間報告で改善点として挙げた発問の仕方、授業展開については、意識して改善をした。また、ICTの活用を大幅に取り入れるなどの授業改善を継続的に行った。
		<ul style="list-style-type: none"> ALとICTを活用した授業の実施と計画的な学習指導（課題や小テストの反復等）の実施により、学習した内容を使って問題を解けるレベルまで生徒の学力引き上げるよう努める。 [学年末の評価平均値] 	D	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の評価平均は7.0であった。1学期も含めた平均では7.2となるが、目標を大きく下回る結果となった。次年度以降、さらなる小テストの反復実施や宿題の量を増やすことで、基礎知識の定着を図りたい。また、授業を効率的に進め、問題演習等、生徒自身が考える時間を確保したい。
保健体育科	規範意識を徹底することにより、緊張感を持って授業に臨む姿勢を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始時の服装違反を減少させる。 [昨年度（372件）比] 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初より、授業開始時に集合状況・態度、挨拶、服装についての指導を積極的に行い、授業に入る前の意識の向上に努めてきた。その結果、違反件数は、前年を13%減少した。特定の生徒が違反を繰り返しており、今後の課題として残った。
	遅い生徒を育成するため、体力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 15分間走における昨年度（春・秋）の平均記録を更新する。 [記録差] 	B	<ul style="list-style-type: none"> 体力の向上を目指し、全学年通じて授業前に毎回倒立と5分間走を実施した。その結果、生徒1人1人の体力の向上は図れていると感じるが、部活動を引退した3年生の記録の低下が大きく、全体としては記録の向上を図ることができなかった。
	保健体育科の取組をホームページに掲載し、本校の教育活動の発信に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ掲載回数を増やす。 [掲載回数] 	D	<ul style="list-style-type: none"> 3月までで7回で、行事等の定期的なホームページの更新は実施できたが、それ以上の発信をすることはできず、課題が残った。
芸術科	生徒一人一人が作品と向き合う中で、意欲的に制作に取り組めるよう、授業規律の確保と授業態度の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に制作の過程を踏み、作品を期限内に完成させ、提出する。 [期限内の作品提出状況] 	B	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導を通して、製作の集中力確保は向上したと感じられた。この取組及び成果を維持・発展させたい。
英語科	授業力の向上及び生徒の学力伸長を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な学習指導（週末課題や小テスト等）の実施により、4技能の定着を図り、生徒の学力向上に努める。 [英検準2級と3級の過去問題の平均得点率の変化] 	A	<ul style="list-style-type: none"> 前年度比較13.4%の得点率上昇が見られた。英検の受検を希望する生徒は徐々に増加しており、適切な量の問題演習に取り組む必要性が高まっている。 次年度以降も、個々の生徒の目標が達成できる学力の獲得に向けて、引き続き、努力を継続する。
		<ul style="list-style-type: none"> 非常勤講師を含めた教科内での授業公開を実施し、共有する指導目標の明確化を図り、生徒の学力向上に繋げる。 [教科内での授業参観回数] 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の公開授業週間と与謝野地区中学校英語研究会との交流を有効に活用して、延べ12回の授業公開を実施することができた。勤務時間の関係で、非常勤講師の先生方に教諭の授業を覗いていただく時間を確保することが難しいため、教科内での情報交流をより緊密化することによって補える仕組みを検討する。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
	進路に向かって力強く歩む心を育くむため、能動的な学習活動を通じて、自己肯定感と自己有用感を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・自学自習の習慣化を促す指導を心掛け、英語学習に対する苦手意識を改善する。 <p>[英語学習に対する自己有用感の上昇者数の割合]</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・英語学習に対して自信を深めた生徒の割合が、入学当初の4%から51%に増えた。 ・教材の難易度が高まった後期においても、習熟度別授業を通して、生徒の実態に応じた対応が可能になっているためであると考えられる。 ・2年次以降もこの状況が維持できるように、教科全体の取組を充実させていく手立てを講じる。
家庭科	人の一生と家族、家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的、基本的な知識と技術を習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活に関する基礎知識の学習プリント記入を徹底する。 <p>[学習プリントの記入割合]</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・生活を充実向上させるために必要な基礎的、基本的な技術を身に付けさせる。 <p>[衣食住の各分野における実習実施回数] (衣食住の各分野からバランスよく実施する。)</p>	B A	<ul style="list-style-type: none"> ・提出率は100%であるが、6%程度の生徒が集中力不足等で記入漏れがあり、注意すると次回に完成させるという状況であった。 ・実技実習は、保育分野1回、食生活分野4回、衣生活分野1回、住居分野1回実施した。 ・生徒は、どの実習にも意欲的に取り組み、レポートの完成度も比較的高かった。
学校関係者 評価委員会 による評価				<ul style="list-style-type: none"> ・海洋高校の各方面での活躍が顕著である。もっと知っていただけるようにするために、国道等の目立つ場所で、横断幕等でPRされたらよいのではないか。 ・特に、レスリング及びウエイトリフティング部で世界大会にまで出場するなど、活躍が顕著である。部活動実績による推薦入学等の制度がない中で、生徒の育成が奏功している。 ・当番制によるボランティア活動の計上が割愛されているということであるが、今年度、台風災害復旧に係るもの等、活発に取り組まれている。 ・自転車通学者のマナー向上に、引き続き取り組まれる必要がある。 ・地元への就職者の割合が2～3割ということであるが、地域に根ざした学校であることを踏まえ、地域への貢献という観点からも教育活動を充実していただきたい。
次年度への 改善の方向性				<ul style="list-style-type: none"> ・本学校経営計画においてD評価が多い結果を踏まえ、各項目での目標達成への取組強化を図る。 ・人権感覚の醸成を促すとともに、人権意識の低さに由来する課題事象の減少に努める。 ・一定の成果が見られた下宿の見回り指導や下宿生アンケート、下宿生ミーティングの継続及び充実による下宿生の生活を安定させる取組を継続させる。 ・広報活動の充実を図り、目的意識の高い生徒の入学を促す。 ・テレビ放映や新聞掲載等のマスコミへの働きかけをさらに充実させ、教育活動の一層の発信を図る。 ・課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びの充実を図り、研究活動を一層充実させることで、生徒の進路実現につなげる。 ・宮津商工会議所との連携協定を踏まえ、地域のニーズに応じた研究活動の充実を図り、地域水産業との連携を一層進めるとともに、地域社会で活躍できる人材育成に努める。 ・スタディサプリをより活用するなど、ICTを活用した教育活動の充実を図る。 ・各学年部とその他の分掌との連携を強化し、生徒1人1人の個に応じた指導を充実させる。 ・研究活動や部活動、資格取得やボランティア活動等の活性化により自己有用感の醸成を図る。